

日時	令和 7 年 3 月 28 日（金） 15 時 30 分～17 時 00 分	
会場	県庁別館 9 階特別第二会議室	
出席者	会場	村田委員◎、石黒委員、庄司委員、鈴木委員、浜浦委員、松永委員、森下委員（※馬瀬委員代理）山崎委員、山室委員
◎：議長	オンライン	山谷委員
議事要旨	【事務局説明】 - 議長による開会の挨拶後、しずおかスポーツ産業ビジョン（素案）の策定スケジュールや検討会議を踏まえた素案への反映状況、静岡県議会文化観光委員会での県議からの質疑状況について、事務局から説明を行った。 【出席者による自由討議等】 - KPI の設定、具体的な取組内容 - スポーツ産業市場規模の算出について、事業所数比率が分かることにより県内の強み・弱みを把握し、現状におけるベターな方法で取組を走らせることが大切。他県に先駆けた取組である。 - グローバルな流れの中で SSA の考え方でスポーツ産業の市場規模を算出することは非常に有意義である。静岡県の市場規模を全国の 3%と仮定し計算していたが、内訳の積み上げにより実際に 3.01%という結果が出たことも、これまでの仮定の妥当性が証明できたと感じている。また、事業所数比率から静岡県の強み・弱みを把握できたことも非常に価値のあることである。 - 施策 1 の KPI として、プロスポーツチームの売上の拡大を目指すのはどうか。法人化しているチームの売上額をヒアリングし、総額を入れてみては如何か。 - 施策 1 について、県内に県所有・市町所有・民間所有など様々なスポーツ施設があるが、既存施設の収益状況がどうなっているかを把握すべきではないか。効果的に運用されていない公的施設については、管理方法の見直しを含めて、どのように活用させるのかという視点にたって検討する必要がある。 - 施策 2 の目標値が他の施策と比較してアンバランスに感じる。スタートアップだけでなく様々な企業の組み合わせを含めれば、もう少し規模を増やせるのではないか。 - 施策 2 の「オープンイノベーション」はスタートアップに限定しない概念である。カウントすることを目的にすると本来の目的とずれてしまうことが懸念される。 - 施策 1 ～ 5 を並べると、施策 2 の金額規模が小さいことが気になる。スタートアップに限定せず、対象を拡大することは可能か。触媒を入れて大きく見せるという方向性が良いのではないか。 - 施策 3 について、大会誘致として民間と連携した大会を開催し、KPI として大会数や関係者数等も含めた方が良いのではないか。 - 施策 3 の KPI として、グローバルレベルのチームの受け入れ数などもあって良いのではない	

か。ナショナルチームの誘致率や国内トップチームの受け入れ数等も KPI の候補に挙げられる。また、施策 5 の KPI をアスリート雇用に係る事業所登録数としているが、スポーツ系の事業所新規や中途採用数等を含めても良いと考える。施策毎の KPI 数やレベルを揃えても良いと考える。

- デジタルや e スポーツなど、グローバルの観点で産業成長力がある分野も伸ばすことも含められるのではないか。
- グローバルな観点を取り入れることは必要。静岡県になじむかは定かではないが、e スポーツの要素を含め、規模を大きく見せることは検討できるのではないかな。
- KPI や取組内容はイメージできるものの、これらに対する投資や予算はどのように考えているか。
- スポーツ産業の定義として、資料 5 の P14 に記載されている認識だが、冒頭の P4 などにも含めた方が良いのではないかな。現在はスポーツ産業ではなくても、今後スポーツ産業になる可能性があることを見せることができると良い。「スポーツ産業ビジョン」ではあるが、産業領域だけでなく幅広く関心を持ってもらえるものとしたい。
- K P I はデータとして取れるものを元に設定することが前提となっているため、その旨を注意書きとして入れることも考えるべき。